萩藩諸家系譜

全一巻

岡部忠夫編著

中国地方八ヶ国の氏族家系を解明
大内・毛利家臣団の実像に迫る

限定三八〇部復刻

マツノ書店

萩藩諸家系譜　目次索引

	氏名	頁数
あ	青木氏	89
	赤川氏	325
	赤木氏（上領氏）	22
	阿川氏	1201
	秋里氏	494
	阿曽沼氏	737
	厚母氏	187
	〃	1060
	天野氏	451
		453,465,472
	有地氏	800
	有福氏	724
	粟飯原氏	887
	粟屋氏	120
	阿武氏	243
い	飯尾氏	411
	飯田氏	144
		147,828
	伊木氏	338
	生駒氏	289
	伊佐氏	239
	諫早氏	771
	石津氏	821
	出羽氏	951
	磯兼氏	331
	市川氏	436
	〃	611
	伊藤氏	765
	伊東氏	446
	糸賀氏	823
	糸永氏	1203
	井上氏	150
	〃	393
	井原氏	487
	入江氏	443
う	氏家氏	743
	宇野氏	1121
	〃	1125
	臼井氏	342
	臼杵氏	788
	馬屋原氏	68
	浦氏	307
	浦上氏	880
え	江木氏	1134
	榎本氏	663
お	大多和氏	377
	大庭氏	388
	岡氏	574
	〃	987
	岡本氏	963
	岡部氏	727
	〃	888
	小笠原氏	103
	緒方氏	1109
	奥平氏	604
	小倉氏	180
	小野氏	810
	小幡氏	1081
か	香川氏（井上氏）	392
	柿並氏	1160
	賀来氏	1114
	堅田氏	126
	勝間田氏	651
	桂氏	1038
	門多氏	776
	神村氏	943
	上山氏	1000
	金子氏	346
	兼重氏	1063
	兼常氏	1096
	賀屋氏	617
き	吉川氏	423
	来嶋氏	231
	木梨氏	255
く	草刈氏	748
	櫛辺氏	868
	口羽氏	340
	〃	1048
	沓屋氏	863
	国司氏	478
	国重氏	72
	久芳氏	273
	熊谷氏	277
	蔵田氏	983
	来原氏	1138
	桑原氏	380
こ	神代氏	139
	河内氏	54
	河野氏	854
	児玉氏	579
	小早川氏	293
さ	雑賀氏	814
	財満氏	1087
	坂氏	1036
	桜井氏	189
	篠川氏	826
	佐々木氏	217
	（伊佐氏）	239
	刺賀氏	84
	佐世氏	232
	佐波氏	1175
し	重見氏	845
	宍戸氏	39
	志道氏	1043
	清水氏	414
	下瀬氏	30
	白井氏	334
	宍道氏	227
	神保氏	344
す	水津氏	817
	末武氏	1145
	末近氏	1069
	周布氏	533
	椙杜氏	1167
	椙原氏	266
	諏訪氏	184
そ	祖式氏	117
	曾祢氏	628
た	高洲氏	261
	高杉氏	87
	竹田氏	82
	田総氏	991
ち	張氏	1209
つ	土屋氏	96
	都野氏	624
と	東条氏	137
	豊田氏	608
な	内藤氏	639
	〃	683
	長井氏	1006
	中川氏（赤穴氏）	1187
	中嶋氏	33
	〃	475
	中所氏	52
	中村氏	98
	長崎氏	783
	長沼氏	249
	〃	731
	奈古屋氏	1066
	梨羽氏	319
	楢崎氏	913
に	新山氏	76
	蜷川氏	975
	二宮氏	130
	仁保氏	373
ね	根来氏	833
の	能美氏	402
	乃美氏	314
	乃木氏	248
	信常氏	1054
は	羽仁氏	177
	〃	38
	羽根氏	918
	波多野氏	383
	〃	694
	服部氏	1074
	林氏	65
		621,656,758
ひ	日野氏	791
	平岡氏	849
	平賀氏	673
	弘中氏	193
ふ	福井氏	79
	福嶋氏	1071
	福原氏	993
	福間氏	59
ほ	北条氏	291
ま	馬来氏	57
	益田氏	497
	町野氏	658
	松田氏	700
	〃	711
み	三浦氏	363
	三上氏	808
	御郷氏	1130
	三隅氏	548
	三田氏	1005
	三井氏	634
	光永氏	1056
	三戸氏	163
	南方氏	934
	三吉氏	780
	三輪氏	1103
	宮氏	797
む	椋梨氏	322
	村上氏	199
	村田氏	1209
め	廻神氏	838
も	毛利氏	1012
	門司氏	923
	門田氏	1058
や	矢田氏	1150
	柳沢氏	91
	山内氏	555
	山県氏	157
	〃	357
	山田氏	35
	〃	171
	大和氏	269
ゆ	湯浅氏	875
	湯川氏	571
	湯原氏	903
よ	横山氏	885
	吉田氏	245
	吉見氏	3
り	李家氏	1209
れ	冷泉氏	1157
わ	鷲頭氏	1140
	渡辺氏	211
	和智氏	714
	綿貫氏	160

禄高に関係なく、出自の明らかな家系を

岡部忠夫

山口県文書館に保管されている系譜類は次のものがあり、数千冊という膨大な数にのぼる。

一、系譜類　本家萩毛利家をはじめ、末家一門の家系を、明治中期に毛利家編纂所において調査のうえ作成されたもの

二、巨室類　毛利一門六家と益田、福原両家永代家老の家譜を、次項の譜録作成時に各家から提出させたもの

三、譜録類　享保年間編集の『萩藩閥閲録』につづく事業として、元文、寛保、延享年間に萩藩士から録上させた古譜録と、明和、安永年間に録上された新譜録に大別されるが、家によっては享和、天保年間に追加譜録として録上されたものや、ごく一部の家では明治、大正に追加挿入した系譜もある。総数は寄組以下諸士から細工人に至る二五九五家におよぶ

四、徳山藩譜録　本藩に準じ徳山藩士から録上させた系譜類

五、諸家文書　諸家が伝える譜録類で文書館が保管するもの

以上、系譜を録上した氏族中には、中国五県、愛媛県、福岡県などの地方史研究上必要なものが多く、個々の氏族についてはすでに県史、市町村史、研究論文などに発表済みである。しかし、萩藩にはこのような氏族がいるのだという集大成された出版物は、いまだ刊行されていない。

かつて寄組以上の系図を集めた『近世防長諸家系図綜覧』が刊行されたけれど、禄高や地位は毛利家との親族関係で決定されるもので、必ずしも萩藩氏族の代表的な家系であるとはいえない。従って萩藩氏族の全貌を書いたものは皆無であるといって過言ではない。

なぜ、これまで手がつけらなかったのであろうか。まず考えられることは、山口県の中世は大内氏の時代であり、毛利氏の時代は近世に入ってしまう。中世において萩藩士が活躍した地は、安芸、備後、石見、出雲、伊予などであり、地元地方史研究家にとって研究の対象にならない。

またこの系譜類は数も多いが、その内容は系図、正統伝書、文書など多彩で、一氏族のみで三冊にわたる場合もあり、短時日で研究できるものではない。そのうえ古文書は消耗の恐れがあるためコピーはとれない。写真にとるか、鉛筆で筆写する以外はなく、経済性を考えたらとてもできる仕事ではない。以上の二点が、これまで誰も手をつけなかった根本原因のようである。

言うまでもないことであるが、萩藩は防長二ヶ国、公称三六万七四〇〇石ではなく、中国八ヶ国、一二一万石の大々名・毛利家を前提として見るべきである。それは次のような複雑多岐な氏族を含んでいる。

まず、安芸、備後の国人で、かつては毛利氏と対等関係にあったが、毛利氏の台頭により漸次その麾下に入った、国衆と称せられる氏族。次に、周防・長門では大内氏の一族およびその家臣であった、外様と称せられる氏族。尼子氏のように出雲、石見から毛利氏に降伏し、臣従した氏族。そして足利将軍義稙、義昭に従って下向してきた氏族。豊臣氏や徳川氏のため滅ぼされた大名またはその家臣で、毛利氏を頼ってきた氏族などである。

これらの家系は、姓氏家系研究上、欠くことの出来ない重要史料であると確信する。

私は本書を編集するにあたり、史上に現れる氏族を主とし、かつ、その出自の明らかなものを禄高に関係なく選定した。ただし、歴史を異にする家系は、同一氏族であっても重複して掲載した。各氏族が関係する国は四十数ヶ国にわたっている。そのため各地の県史、市町村史、研究論文などに極力あたり、真実を伝えるべく努力したつもりであるが、非才の身の大業ゆえ、不明過誤も多々あると思う。今後先輩諸兄のご指導を願って訂正していく以外はない。

本書編集にあたりご指導を賜った毛利博物館長臼杵華臣氏や、山口県文書館の職員の方々のご厚意に対し、紙上をかりて厚く御礼申し上げる次第である。

（本書序文より）

内容見本

吉田氏

吉田氏は宇多源氏にして佐々木三郎秀義の六男厳秀（源秀）より出る。

厳秀の孫源左衛門尉秀長は、天龍寺供養のとき行幸の調度役を勤めた。しかし、光厳帝の行幸は、山門衆徒の猛烈な反対に会って取りやめになったが、天下の壮観といわれた後醍醐天皇の七回忌の落慶供養は行なわれた。

秀長の子肥前守厳覚は出雲目代であった。正平五年（一三五〇）尊氏は石見の三隅氏らを討伐するため高師泰の軍を派遣した。それと同時に尊氏は吉田肥前守厳覚に対し、石見遠征軍の兵粮米二〇〇〇俵、大豆五〇〇俵を調達させた。

秀長の十代孫筑後守某は、天文年中（一五三二～五四）備中国松山城に居住した。筑後守の孫左京亮が故あって切腹したとき、その嫡子源四郎は十三歳になっていたが、家臣達が取り立て二百余人大江城にたてこもったが、毛利、三村修理助家親の二千余騎に攻められて落城し、追懸ける敵を討ち払いつつ源四郎主従は落ちていった。源四郎は楫原播磨守盛重に育てられて成人し肥前守光倫と称し、盛重の娘を娶り領地一二八四石を領した。その後毛利元就に仕え、天正二年（一五七四）九月、私部麓合戦、同六年六月二十八日、上月之城合戦、同七年伯州長郷合戦に戦功をたてた（安西軍策）。光倫の嫡男孫右衛門元重は朝鮮征伐に出陣した。

吉田氏は萩藩大組にて三〇五石余（外二三三石減少石）を給わり、庶子家が数家ある。

吉田氏

宇多天皇十世孫佐々木源三秀義六男

姓 源 称吉田氏 来由不詳

- 吉田 某 厳秀（源秀トモ） 法橋 母 妻 卒年月共不知
  - 吉田 秀長 源左衛門尉 同上
    - 吉田 某 肥前守 厳覚カイ 同上 出雲目代
      - 吉田 泰久 三郎左衛門 同上
        - 吉田 基綱 左兵衛佐 同上
    - 吉田 長久 九兵衛 同上
      - 吉田 秀方 肥前守 同上
        - 吉田 秀久 左京亮 同上
    - 吉田 信重 三郎左衛門 同上
      - 吉田 重次 源左衛門 同上
        - 吉田 某 筑後守 母 妻共 不知 天文二十年七月十三日死 年齢不知
    - 吉田 某 備中守 母 妻 卒年月不知
      - 吉田 某 左京亮 母 不知 妻 宇山飛弾守某女 卒年月不知
    - 吉田 光倫 源四郎 肥前守 母 宇山某女 妻 杉原播磨守盛重女 天正九年十二月二十五日卒 年齢不知
      - 吉田 元重 孫右衛門 母 杉原盛重女 妻 田総惣左衛門元勝女 明暦元年八月十六日卒 年齢不知
        - 某 惣右衛門 母同 仕吉川家建一家
        - 野田 某 九兵衛 称有故野田氏別建一家 母同
      - 吉田 光房 数馬 忠兵衛 母 粟屋元宣女 妻 桂権左衛門元勝女 正保三年七月四日卒 年齢不知
    - 吉田 就親 彦左衛門 母 田総惣左衛門元勝女 妻 粟屋肥前守元宣女 寛文十年十一月七日卒 年齢不知

内容見本

- 就房　外記　七郎左衛門　秀就公御代別賜禄後為忠兵衛光房嗣子故譲別　取賜禄於弟権左衛門就次
- 女　吉川臣　吉田太兵衛某妻
- 女　山田又兵衛重利妻
- 吉田馬嶋 某　三郎右衛門　正悠　別建一家　子孫改　吉田称馬嶋
- 吉田 就次　宇兵衛　権左衛門　以兄七郎左衛門就房譲與　禄建別家
- 吉田 就房　七郎左衛門　初和房　実孫右衛門元重次男　母　田総惣左衛門元勝女　妻　山内善右衛門元通女　慶安四年五月十一日死　年齢不知
  - 吉田 光俊　長吉　源四郎　孫右衛門　続七郎左衛門就房家　実忠兵衛光房次男　母　桂権左衛門元勝女　妻　宍戸藤兵衛就信女　後妻　岡利兵衛正盛女　享保二年四月二十八日死　年七十二歳
    - 弘 忠通　忠左衛門　勘右衛門　続弘勘右衛門忠正家
  - 女　野田庄兵衛就時妻
- 光俊　長吉　源四郎　孫右衛門　続七郎左衛門就房家
- 吉田 倫重　長吉　惣右衛門　母　宍戸藤兵衛就信女　妻　粟屋二郎兵衛就稔女　享保十一年十一月十九日死　年五十九歳
  - 吉田 房経　蕃内　孫右衛門　実岩崎理右衛門友住男　母　粟屋就稔女　妻　惣右衛門倫重女　後妻　遊佐新右衛門隣茂女
    - 女　孫右衛門房経妻
    - 女　馬嶋友琢光董妻
    - 光貞　蕃内　為孫右衛門房経嗣子
- 中村 信房　平八　半左衛門　続中村権右衛門成信家

推薦のことば

前毛利博物館館長
現(財)防府毛利報公会理事　臼杵華臣

家系のルーツをたずね、姓氏の由来を究めたいとは、誰しもが持つ願望であろう。

幸いなことに長州藩では享保年間、家老から細工人に及ぶ全ての家臣に命じて、伝来の文書の写しと略系をつけ出させた。これを『萩藩閥閲録』という。その後も引き続いて藩庁は、数次にわたって、各家の系譜と伝書を録上させており、その総数は二五九五家に及ぶ。これを『萩藩譜録』という。

ところで、長州藩の家臣団を総覧するに、戦国時代、毛利元就が中国地方十州に覇をとなえて以来、十州の豪族は全てその麾下に集まり、さらに中世、中国地方から北部九州一帯に支配力を握った大内氏の遺臣たちがまたこれらに糾合された。そして慶長五年の関ヶ原合戦後、毛利氏の防長移封にともない、これらの家臣は主家と共にこぞってこの地に集結したのである。したがって『閥閲録』『譜録』に載せるところは、独り防長二州に止まらず、その出自の由来するところ、中国・四国・九州さらには京阪・関東におよぶ。

編者はこのことに着目し、前掲の二書を精査し、大内氏関係ではその本拠地防長にはじまり、帰属の京阪・中国・四国・九州の諸族、毛利氏関係では関東にはじまり、その制覇した中国地方全域の諸族のうち、出自のはっきりしているもの、史実の裏付があり信憑性の高いもの、全国的な広がりをもつものなどを重点に、禄高・身分に関係なく二百数十家を選び、その家系を究明した。

調査に際しては、広く関係の県史・市町村史による探索はもとより、疑問点については氏族の出自地に出向き正確を期したと聞く。その長期にわたるたゆまぬ努力に深く敬意を表するものである。

本書が、複雑多岐にわたる毛利氏家臣団の成立とその変遷を解明する一助となり、諸家の家系をたどることによって、われわれに出自を探る手懸かりを与えてくれることを期待するものである。

▲萩藩士の系図集は、これまで二点だけ刊行されています。今回復刻する『萩藩諸家系譜』と、昭和四十一年に刊行され、後に小社で復刻した三坂圭治・田村哲夫編『近世防長諸家系図綜覧』です。

▲学問的により綿密なのは『綜覧』かもしれませんが、『系譜』は『綜覧』に比べ総頁数、掲載の家系数とも約三倍あります。『系譜』は『綜覧』の内容をほぼ含んでいる上『綜覧』にない家系が百五十以上もあり、また『綜覧』が系図だけなのに対し『系譜』には家ごとに親切な解説も付されています。中国地方史研究者の座右に必備の一冊です。

▲岡部忠夫氏は系図一筋に生涯をかけた篤学の士です。退職後は山口県文書館に日参し、すべての時間と精力を大内・毛利家臣団の系図解明に捧げ、昭和五十八年、琵琶書房から本書を刊行後、まもなく他界されました。

■体　裁　B5判一二四〇頁　上製貼箱入
■予約特価　二万五千円（税込・送料750円）
■定　価　三万円　（　〃　）
■予約締切　平成十年十一月二十日
■発　売　平成十一年一月上旬
限定三八〇部復刻（番号入）
徳山市銀座二の一三
☎〇八三四㉔二一九五
マツノ書店